（別紙4） 平成 25 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2172600609		
法人名	（有)ニフコ		
事業所名	グループホーム田舎		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町沓井603		
自己評価作成日	平成25年11月5日	評価結果市町村受理日	平成26年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2172600609-00&PrefCd=21&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成25年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かな田園風景に囲まれた 伝統的な日本家屋という住み慣れた住環境です．長期間，ご利用頂く中での身体能力の低下は否めませんが，かかりつけのクリニックの往診や看護職員と介護職の連携を密にし，健康面でのサポートを充実させ，ご利用者，ご利用者家族に安心してお過ごしいただけるように努めています．利用者とスタッフが，あまり気をはることなく自然体で一日一日を楽しく過ごしていけるような場でありたいと思っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者が重度化し、出来ていたことが出来なくなっている現状の中で、理念を基に、職員は、利用者一人ひとりが「何ができるか」「毎日楽しんでいるか」を考え、もてる力を引き出す努力をしている。管理者は職員に、日頃の介護の中で規制に縛られず、柔軟に考えるよう常に声をかけている。段差のある日本家屋の良さを残し、利用者が安全に暮らせるようリフォームしている。健康管理には食事を大切に考え、地産の食材や、畑で収穫した野菜を利用し、利用者の好みや状態に合わせ調理している。ゆっくり自分で食べられるよう見守り支援をしている。医療が必要になれば、医師・家族・事業所と積極的に話し合いながら、適切に対応支援し看取りの事例もある。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議や地域の方々との話し合う場において，介護保険の意義，これからの介護の在り方などについて共に考え，語り合う場としている.	管理者・職員は重度化しても利用者のできることを探し、どんなことが楽しめるか、日々考えながら理念を実践しようと努めている。10年の経緯から、利用者の現状に合わせた理念の捉え方を話し合っている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から野菜を頂いたり，庭仕事，畑仕事の助言，手伝いなど地域の人々と交流している，	回覧板を見て運動会や清掃に参加している。地域の人に事業所を紹介したり、野菜つくりを教わり、又、災害訓練の協力を得ながら付き合いを深める努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の校外学習の場を提供し，介護や人権，家族，人生について語り合った.		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し，地域の介護相談や防災に関して地域の協力を得られるよう取り組んでいる	年間計画を立て多職種の人々の参加を得ながら、事業所の改修や利用者の誤嚥予防体操の紹介、避難訓練の協力など、意見交換しながらサービスの向上に取り組んでいる。外部評価も報告している。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の福祉担当者と日常的に接触し．入居者やスタッフの状況について報告し相談し，様々な助言を頂きながら事業を進めている	定期的に役場に出向き、利用者のこと、介護保険料のことなど相談や助言を得ている。役場から種々の委員を引き受けたり、介護相談員を受け入れたりして協力関係を築いている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が考えられる場合はその場ですぐ指摘し，スタッフ全員で問題を共有して解決し，人権意識を高めている	管理者は、外部の身体拘束についての研修を受け、全職員と日常会話の中や折に触れ話し合っている。利用者の起こりうる行為の事例を想定し、職員間でどの様に対応したらよいか話し合い、身体拘束ゼロに向けて学習している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束について，難しい法律論でなく具体的に「どのような行為か？」など日常的な平易な話合いを通じて人権侵害や虐待の防止に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護について，積極的に外部識者や社会福祉士と話し合い学ぶ機会を持つよう努めている．職員にフィードバックしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時，できるだけ多くの家族や関係者に対して充分に説明し，入居に際しての理解と納得を得ている		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が管理者とできるだけ本音で話せるような関係作りに努めている．月末の請求書を個別に訪問して要望，苦情を聞き取っている	利用者が重度化するにつれ、家族からの意見や要望が少なくなってきているが、管理者は個別訪問し、直接家族と話し合う機会を作り、要望や意見を言いやすい関係作りに努めている。又、訪問を促している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日常の細かい業務についてスタッフの意見を出来るだけ取り上げ，仕事にやりがい感を得られるように努めている．（長期雇用を通じた相互の信頼感がある）	長期勤務の職員が多く、要望など管理者に直接伝えている。危険箇所に手すり、テーブルの保温対策にカバーを付けるなど現場の意見を尊重し実現している。だが、会議などが開催されてなく、全職員の話し合う場や意見交換、研修に参加する機会も少ない。	職員同士が意見交換できる場を設けると共に職員を育てる取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況や能力の向上具合を積極的に評価し，働きやすくやりがいのある職場環境をつくるために努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる講習会を紹介し，参加を呼びかけている．講習会の参加費用の一部を助成している．		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の市町村の勉強会．地域の福祉事業者やグループホーム協議会に参加し，意識とスキルの向上を目指して情報交換をしている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より在宅時の生活状況や趣味，性向を聞き取りするなどして本人が安心して暮らしていける環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族，親類の間に適度に介入し，本人と家族を一体的に支えることを目指している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	急激な生活環境の変化を緩和調整するため，ショートステイからの導入や系列デイサービスの応援など様々な経営資源を利用している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が有している生活力を尊重した施設を目指しているが，現実的にはADLと危険性を考えると難しくなっている．引き続き　利用者の生活力を見い出すよう努めていきたい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意志を尊重しつつ，家族と利用者を共に支えることを目指している，ともすれば断絶しがちな関係がよりよい方向に動き始めるききっかけ作りができればと考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解を得ながら，時折，自宅にもどるなどすることを提案，支援している	自宅に帰ることが、馴染みの人との出会う機会が多くなると考え、家族と話し合いながら支援し実現している。手紙の宛名書きや、電話の取次ぎを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を注意深く観察し，お互いが生活の質を高めあえるような関係を築けるよう見守り　支援している．		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された方を時折訪問し　本人や家族を側面的に支援している. 離れたことでお互い気付くこともあり, 自らの在り方についてスタッフと前向きに話し合っている.		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって　できるだけ居心地のよい場所でありたいと考え, その実現に努めている	新聞やチラシを見ながら話題を広げ意向の把握に努めている。元気な頃にしていた土筆取り、干し大根作りなどの意向もある。動きたい、歩きたいという希望などを、危険のない工夫をしながら実現に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や性向を把握し, できるだけ暮らしやすい環境作りに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察, 記録し　スタッフ間で相談しながら生活力, ADLや生活力の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者やスタッフで話し合いながら　介護計画を作成している	管理者は訪問時に家族の要望を聞き、職員には一斉にメールし利用者の気づきや対応を聞いている。看護師は医師の意見を取り入れ、管理者と一緒に、モニタリングしながら、介護計画の見直しをしている。状態の変化に合わせその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を観察記録し, 管理者スタッフ間で相談協議し, 日々の介護に実践しケアのレベルアップに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設デイの利用. 外出レク. 緊急時の病院送迎など, 利用者や家族の状態, 状況に応じて臨機応変に柔軟, 迅速に対応している.		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店にて出張にて整髪．ボランティアに「笑いヨガ」を軽度の身体レクとして行って頂いた．		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	症状に応じて本人あるいは家族の希望する医療機関に受診できるよう支援している．施設かかりつけ医に定期的な受診をお願いし，利用者の状況を把握．日常的に見守って頂いている	家族・本人の希望の病院を受診している。必要に応じ協力医・訪問歯科の往診を受けている。医師・家族とは管理者や看護師が連絡を密にし、職員とも共有しながら、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設デイの看護職員のバックアップを受け，利用者の日々の健康的な生活を見守っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	揖斐厚生病院の入退院に際して，必要な生活情報を提供し，また適時，医師，看護師，MSWと面談し，相談している．		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	疾患が重篤となった場合や様々な予後の状態を想定して出来る事と．家族側が必要な事柄について　それぞれ具体的に説明相談している．運営推進会議においてよく終末期の話題を取り上げている	医療が必要な時点で、協力医や家族、事業所と積極的に話し合いながら対応している。管理者は職員と看取りの対応を話し合い学びあっている。協力医とは24時間連携し、夜間職員の負担軽減となるよう、管理者が泊まりこんで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者は救急救命講習を受講済み，日常的に様々な場面で救急救命法や急変時の対応について説明し　スタッフのスキルアップに努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時の避難方法について，日常的に考え話し合い．定期的に避難訓練を行っている．運営推進会議などを通じて協力体制の構築を目指している	耐震工事・スプリンクラーを完備・避難通路も増設している。発電機・米・水の備蓄もある。消防署の指導を受け避難訓練をし運営推進会議メンバーの協力も受けている。しかし夜間想定した訓練等の実施がなく、地域住民への協力体制が十分と言えない。	地域住民の協力体制を提案するなど、運営推進会議を活用して話し合いをされたい。又、夜間想定した訓練を実施し、利用者・職員の安全の構築が望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重した応対をするよう努めている	命令的にならないように、自尊心を損ねないよう声かけには気をつけている。ケアの中で気になるときは職員同士、お互いに注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の思いを聞きだす為に努力している. 思いを上手く表現できない場合は適切な選択的な質問を行い　自己決定を促す努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を尊重し日々様々な暮らし方を利用者それぞれが実現できるよう努力している.		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	安全と健康に配慮し, 適切な身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在, 調理できる利用者はいないが, 干し茄子, 干し大根作り, 芋の皮むきなど下ごしらえや食材作りをスタッフと一緒に楽しんでいる	居間の一角に台所があり、料理の話題や準備をしながら、料理の匂いが利用者の五感を刺激することで、食事の楽しみになるようにしている。職員は、利用者の状態に合わせ細かく刻み、介助しながら、食卓を共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー, 摂食量を管理, 必要に応じて水分のインアウトや分割食など行い, 個別に栄養と水分の摂取を管理している.		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後, 口腔ケアを行っている. 毎晩入れ歯の洗浄を個人の状況に応じて指示, 見守り, 全介助で行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンと能力，状況に応じて適切な排泄介助を行っている．固定的に考えず様々な変化に応じて柔軟に見直すよう努めている	利用者の排泄パターンや習慣を把握している。尿意を見逃さずトイレに誘導し、できる部分はしてもらっている。夜間は無理に起こさず安眠を優先している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に出来るだけ頼らない自然な排便を目指している．食物繊維の多い食材の積極的な摂取．適度な運動．座位保持を行ったり漢方系のお茶などを服用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全な入浴が自立的に出来ると見込まれる場合は　本人の希望で入浴して頂くようにしている.	利用者の入浴希望日や入浴時間など自由に合わせている。全介助・二人介助入浴の利用者が多くなっている。庭で収穫した、柚子や夏みかんを湯に浮かべ、ゆったりと入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人と同居者の安全で健康的な生活を優先し　それぞれの希望や生活習慣を配慮した就眠環境作りに努めている．それぞれによって消灯時間は異なっている.		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者カルテに薬剤の説明書をファイルして薬剤の詳細について情報を共有している.		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの生活歴や趣味趣向を家族との話しや日々の生活の中から見つけ出し生活に彩りをあたえる支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭の散歩，喫茶店訪問，気分転換の為，近場の観光地へのドライブなどを入居者の体力を考えながら行っている	気候にあわせ、中庭での日光浴や、農道を車椅子の利用者も一緒に散歩している。希望にあわせドライブしたり、外食している。利用者の状態をみながら希望に添うよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を使うことはなかなか無いが，チラシを見ながら野菜の値段を話すなどして金銭感覚の保持に努めている．外出時に金銭を使用するサポートをしている．		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶状や年賀状を書くことを支援している（表書きはスタッフ）		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの生活環境を配慮した在来木造田舎造りの家屋を施設として利用しつつ　，生活上の安全を考慮した改装を行い，また利用者の状況に応じて随時，造作改修を行い安全の維持と健康な生活環境の実現に努めている	和風の庭や、古民家の良さを残しつつ、安全に生活できるようリフォームしている。テーブルを炬燵風にし、ホットカーペットを敷き足元の保温に工夫している。棚の角に保護テープ、手すりにカバーなど、利用者が安全に暮らしやすい工夫がいたる所にみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日本家屋は比較的死角の多く，利用者はそれぞれ『お気に入り』の場を見つけることができやすい．スタッフはそれぞれの居場所を尊重した介護に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全が確保できる限り　本人が慣れ親しんだ物品を持ち込み　安らかに気持ちよく暮らせる様にと考えている	季節ごとに家族が衣類・布団の交換に訪れ、暮らしやすい居室に見直しをしている。食器や湯のみを持参したり、家族の写真、孫の絵などが飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所．トイレへの経路などを入居者の視点を考え見やすく表示している		